





**3.11 伝承・減災プロジェクト**

**3.11 東日本大震災伝承板**

— 仙台塩釜港（松島港区）災害復旧工事 —  
令和 年 月 日

平成23年3月11日に発生した巨大地震は、三陸沖を震源とするマグニチュード9.0という我が国の観測史上最大規模となり、県内で最大震度7の非常に強い揺れを観測しました。この地震により、三陸沿岸で高さ30m、仙台湾沿岸でも高さ10mを超える大津波が発生し、県内で1万人を超える尊い人命が奪われるなど、甚大な被害がもたらされました。私たちは、あの日起きた出来事を「いつかどこかで」ではなく「いつでも起こりうること」として、それぞれの胸にしっかりと刻み、出来るかぎりの備えを講じていかなければなりません。

この震災の経験を風化させることのないよう後世に「なかく」伝承していくこと、また、今後発生しうる災害などに対する迅速な避難行動の啓発を目的としてこの伝承板を県内に設置しています。（宮城県土木部）

### 東日本大震災

平成23年3月11日14時46分頃に発生した「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震」では、東北から北関東の広範囲で強い揺れを観測し、北海道から沖縄県にかけての太平洋沿岸を中心に非常に大きな津波が発生しました。県内での最大津波高は、鹿野川(庄川川)でT.P.+19.6m、最大海上高は女川町でT.P.+34.7mに達し、沿岸地域に壊滅的な被害をもたらしました。この震災は、明治以降では関東大震災(大正12年)、明治三陸地震津波(明治34年)に次ぐ極めて深刻な災害となり、政府はこの地震による震災の名称を「東日本大震災」としました。

### 被害状況

東日本大震災により総観測では最大震度6弱を観測し、津波による浸水面積が約170,00ha、最大津波高も2.6mを記録するなど、16名の尊い命が失われました。また、家屋等の損壊が全壊と大規模半壊を合わせて583棟、その地震被害や工作物の損壊が発生しました。津波施設及び海岸保全施設26施設においても、地震により約70cmの広域地盤沈下が発生したほか、津波により浮き橋脚が出するなどの被害を受け、港湾施設の被害総額は松島港区全体で約30億円となりました。

### 仙台塩釜港（松島港区）周辺

特別名勝松島の島の玄関口である仙台塩釜港（松島港区）は、観光遊覧船が発着する浮き橋脚などの構築を回り、年間約100万人の観光客に利用されています。港湾施設の復旧では、湧出した浮き橋脚については新たに製作・据付を行い、地盤沈下により劣化した構築物等の損壊等については高上げを行いました。港湾施設復旧の復旧では、防潮堤高さを松島の島しよ群による津波減衰効果を考慮し、1レベル（津波対岸のT.P.+2.1m）の高さとしています。また、特別名勝松島の第一種保護地域内にあることから、掘削ブロック表面や護岸天端に掘石模様を施したほか、護岸のコーナートラップ面に板敷石を添つけに構築とし、護岸との調和に配慮しています。

私達はあの日、大自然に畏怖し、そして結束して立ち向かい、今日がある。

— 松島町 —

### 震災前



### 震災後



### 復興まちづくり計画



### 新たな津波対策

過去に県内を襲った主な津波

889	1611	1793	1896	1933	1960	2011
貞観津波	寛政津波	天明津波	明治三陸津波	昭和三陸津波	チリ津波	東日本大震災

L1 津波対策  
L1津波とは、明治三陸地震津波やチリ地震津波などの数十年前から数十年前に一度程度の被害を及ぼす津波のことをいいます。この津波に対しては、粘り強い構造の海岸・河川堤防により市街地等を防護します。

L2 津波対策  
L2津波とは、貞観津波や東日本大震災などの最大クラスの津波のことをいいます。これに対して防波施設を整備することは、費用、設置や利用に及ぼす影響なども考慮すると現実的ではないことから、住居の移転などによる被害を減らし、災害危険区域の指定などの土地利用規制やハザードマップ等「住民避難」を軸としたソフト対策と、堤防、高潮防護等の整備などのハード対策を組み合わせた多重防衛の考え方で減災を図ります。

■ 多重防衛(イメージ図)



■ 河川・海岸で大きな揺れを感じたら、速やかに避難しましょう。